

ア者
シ係
ドネ
ン学
イ大

緑のカーテンに一役

県へサトウヤシ製ネット

愛媛大と県が農業・環境分野で交流しているインドネシア・ゴロンタロ州の大学関係者8人が10日、県庁を訪れ、同国のアレンガヤシ（サトウヤシ）の繊維を編んだカーテンネットを県に寄贈した。つる性植物を植えて茂らせ、日よけの緑のカーテンとして使う。

愛媛大と国立ゴロンタロ大は2007年に学術交流協定を結び、交換留学や共同研究を続けてきた。県と同州も23年、脱炭素化社会実現に向けた連携協力の覚書を締結。長年の交流への感謝を込め、ゴロンタロ大から愛媛大を通じ、県へネットを贈った。

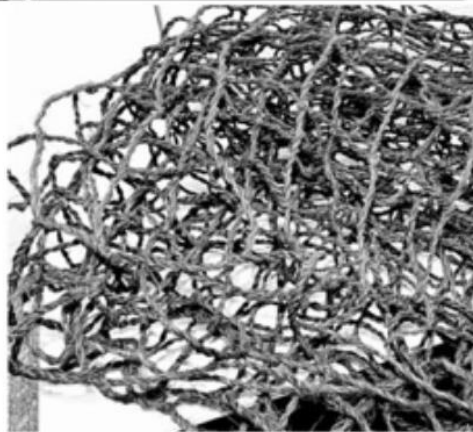


ネットは縦3・6メートル、横1・8メートル。東予総合高校（西条市）と大洲農業高（大洲市）、県みかん研究所（宇

和島市）に設置される。愛媛大の榊原正幸名誉教授によると、サトウヤシ製のネットは耐久性がある一方、処分はしやすい。手作業から機械化が進み、日本への輸出が徐々に増えているという。

ゴロンタロ大や県、高校関係者ら約20人が出席。ゴロンタロ大のモハマド・ヤヒヤ教授は「（交流の）取り組みが続くとうれしい。ミカン産地でも使えるようにできたらしい」と述べ、ネットを手渡した。

（河野茜）



①アレンガヤシの繊維を編んだカーテンネットを大洲農業高の生徒（左）に手渡すモハマド・ヤヒヤ教授。10日午前、県庁
②アレンガヤシの繊維を編んだカーテンネット